

教師の関係性でつくる「学習する組織」

－ ボトムアップで進める実践 －

学籍番号 209125

氏名 深井 恵介
主指導教員 田村 知子

1. 問題の所在と研究目的

1.1 背景

日本の公立高校に勤務する教員の年齢構成は若年化の傾向にある。報告者は、そのことが学校の教育力の低下へと結びつくことを危惧し、教員の職能開発を進める必要性を感じている。

1.2 実習校の実態と研究の目的

実習校では、教員の学ぶ意欲は低いものの、率先して学びの機会を作ろうとする教員の数が少ないことが、質問紙調査により明らかになった。本実践研究では、実習校に、教員同士が関わり、高め合う機会を作ることで、省察的实践家としての学びを促し、「学習する組織」としての学校づくりを目指した。また、公的な役割を持たない一教諭である報告者が、学校改革を進める際に発揮すべきリーダーシップの形について探求した。

2. 実践

2.1 自主研修会「ちょい足し会」による教員の学びの促進

実習校には、日々の教育活動に追われ、各教員が落ち着いて自身の学びに時間を使ったり、他教員に助言を求めたりできる時間が乏しい実態があった。そこで企画したのが自主研修会「ちょい足し会」である。一貫したテーマは設定せず、様々なことを題材に、参加した教員が協働して学ぶことのできる機会とした。2年間で全11回の実施の中で、報告者と他教員とのコミュニケーションの機会は増加し、その関わりを大切にすることで、報告者と他教員との信頼関係は深まっていった。そのことは参加者の感想や、日常業務の中での会話に表れている。そして教員同士の信頼関係の深まりは、教員に安心感を生み、省察を支え、教員の主体的な学びを促進することが分かった。

2.2 他教員の協力で実現した授業相互見学

実習校で行われていた授業改善の取り組みの拡張を図り、授業を公開してくれる教員を有志で募って、授業相互見学の機会づくりを行った。設定した4週間のあいだ、毎日誰かが公開授業を行っている状態を作ることができ、自由な授業見学を促すことができた。授業見学をきっかけに、職員室で授業について話す機会が増えたことは大きな成果であった。

3. 実践の成果と課題

3.1 インフォーマルな取り組みの特徴

本実践研究はボトムアップで進めた実践であるため、すべての取り組みがインフォーマルである。そのため、他教員の協力の有無が取り組みの充実を左右しており、協力してもらえたらどうかという不安を抱えながら進める実践となった。しかし、強制力がない取り組みであったことが、自由度の高さを生み、参加する教員の主体性を高める結果となった。主体的な学びの場の確立は、参加する教員同士の結びつきを強くし、省察的实践家として学ぶ姿勢を成長させることが分かった。

インフォーマルな取り組みは、学校改革を押し進める力が乏しい。しかし、インフォーマルな取り組みに学校改革の推進力を求めることは、インフォーマルな取り組みの持つ良さを損なう結果を生み出しかねない。そこで実習校に、フォーマルな学校改革組織とインフォーマルな取り組みの両方を位置付け、デュアルな構造で学校改革を進めることを提案した。

3.2 学びの機会が促す教員同士の相互作用

分散型リーダーシップ・アプローチの観点では、リーダー、フォロワーならびに置かれている「状況(situation)」を含めた塊を1つの「実践」と位置付ける。本実践では「ちょい足し会」や授業相互見学が「状況(situation)」にあたるが、それらを設定することで、教員同士に関わりが生まれ、相互作用を生むことが示された。相補的な関わりの中で成長する省察的实践家で構成される「学習する組織」にとって、学びの機会の設定は、必要不可欠なものだと報告者は考えている。

3.3 信頼関係の上に成り立つ「学習する組織」

「ちょい足し会」や授業相互見学の取り組みの中で、他教員に関心を示し、他教員と謙虚に関わることで、報告者と他教員の信頼関係は深まっていった。信頼関係の深まりは各取り組みに対する他教員の安心感を高め、より省察的に自身の学びを深める姿勢を作る土台となった。複雑な状況の中で他教員と協力しながら、思考し、判断することを求められる省察的实践家としての教員で構成される「学習する組織」にとって、信頼関係はその成立を左右する根幹だと解釈することができる。

3.4 リーダーシップの変容

実践開始当初、報告者は自身が変革的なリーダーシップを発揮すれば、学校の課題は解決へ向かうと考えていた。それが謙虚さを持たない独りよがりなリーダーシップであることは、実践の中で明らかになっていった。そして実習校に在籍する他教員の、教員としての魅力に気づき、信じられるようになっていくにつれ、自身のリーダーシップは他教員の良さを引き出す支援的なリーダーシップへと変容していくこととなった。公的な役割を持たない報告者のような教員が学校改革を考えると、リーダーに求められるのは、協力してくれる教員を見つけ、その教員の良さを引き出すような、支援的なリーダーシップなのだと確信している。そして、リーダーシップが発揮されるためには、フォロワーとなる教員への敬意が必要であることを、本実践研究を通して学ぶことができた。